

ウェブサイトのご紹介

<http://www.to-ho.co.jp>



ウェブサイトでは、トーホーグループの事業や企業活動、CSR(社会的責任活動)についての情報、IR情報などを公開しています。情報の発信・更新頻度を高め、適時・適切な情報提供に努めています。



「トーホーのCSR」として、安心・安全への取り組みや環境活動、社会・文化貢献活動を紹介しています。



冊子に掲載していない活動についてもウェブサイト「データ集」(PDF)に掲載し、報告しています。

表紙について

「食を通して社会に貢献する」という経営理念のもと活動するトーホーグループでは、安心・安全で新鮮な野菜をより多くのお客様に提供するため、2009年12月に農業法人(株)トーホーファームを設立しました。



安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動
FOOD ACTION NIPPON

トーホーグループは「FOOD ACTION NIPPON(フード・アクション・ニッポン)」の推進パートナーです。



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産したことを示すFSC森林認証紙を使用しています。印刷には生分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易な大豆インキを使用しています。

2010年4月発行(次回は2011年4月発行予定)

トーホーグループ CSRレポート 2010

食を通して社会に貢献する



Contents

トップコミットメント 03

食を通して社会に貢献する

- ①「美味しさ」そして「安心・安全」「健康」な食を提供する 05
- ②「環境」に配慮した事業活動を推進する 09
- ③「食」に関わる企業としての社会貢献活動 13

「人々」との良好な関係づくり

ステーキホルダーの皆様の満足度向上を目指して 15

マネジメント 18

第三者意見 18

編集方針

トーホーグループは、(株)トーホーによる2002年の「環境報告書」の発行を皮切りに、当社グループの経営理念である「食を通して社会に貢献する」活動について報告するレポートを発行してきました。今回のレポートでは、「食」に関わる企業として当社グループが特に重視している活動に絞って報告しています。引き続き当社グループと関わりのある皆様からのご意見や、従業員の活動への思いをできる限り多く掲載することで「顔」の見えるレポートを目指しました。また、グループ会社の活動についての報告も充実させました。

冊子に掲載していない活動についても、ウェブサイトに「データ集」を掲載し、報告しています。
URL <http://www.to-ho.co.jp/csr/environment.html>

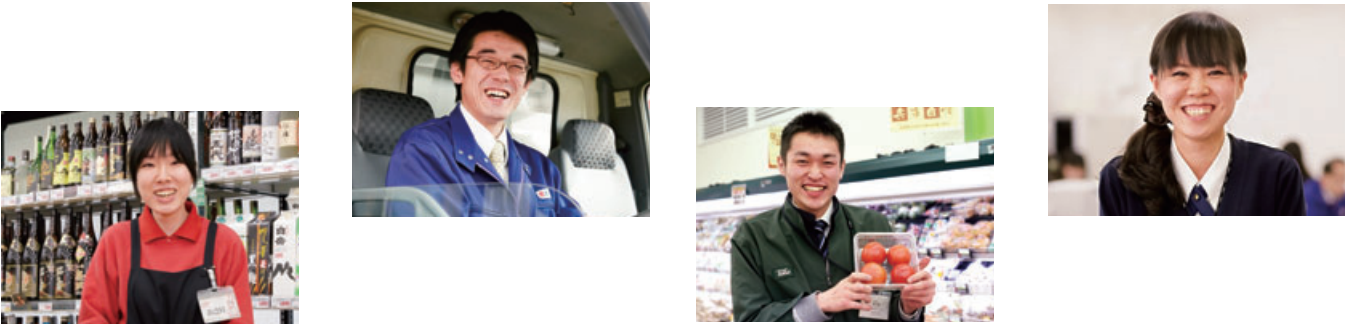
報告対象組織

トーホーグループ((株)トーホー、(株)トーホーフードサービス、(株)トーホーストア、(株)トーホービジネスサービスの4社を中心に、その他のグループ会社についても一部報告しました)

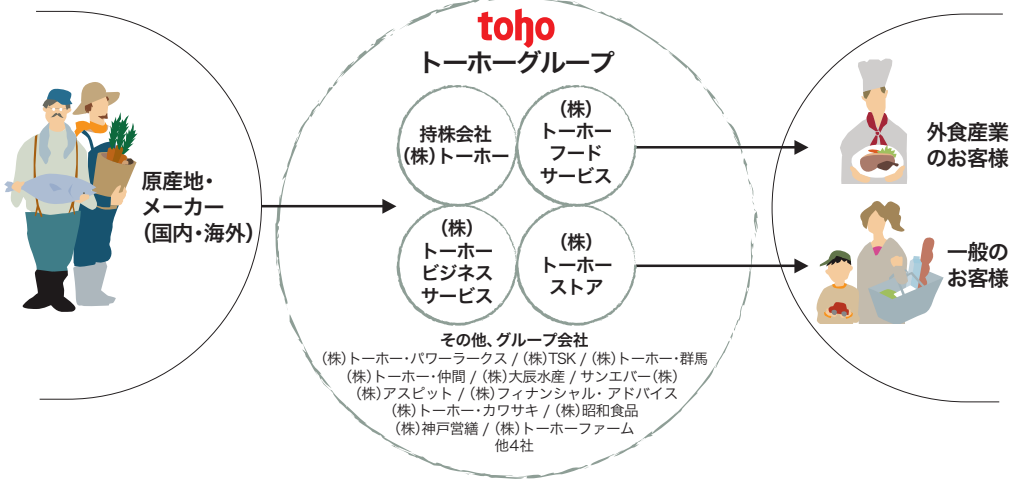
報告対象期間

2009年度(2009年2月1日から2010年1月31日まで)

免責事項：本レポートにはトーホーグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における予想・予測・計画も含まれております。これらには記述した時点で入手できた情報に基づく仮定や判断が含まれており、諸条件の変化によって、本冊子に記載した予想・予測・計画とは異なる可能性があります。読者の皆様には、このような点をご了承いただきますようお願い申し上げます。

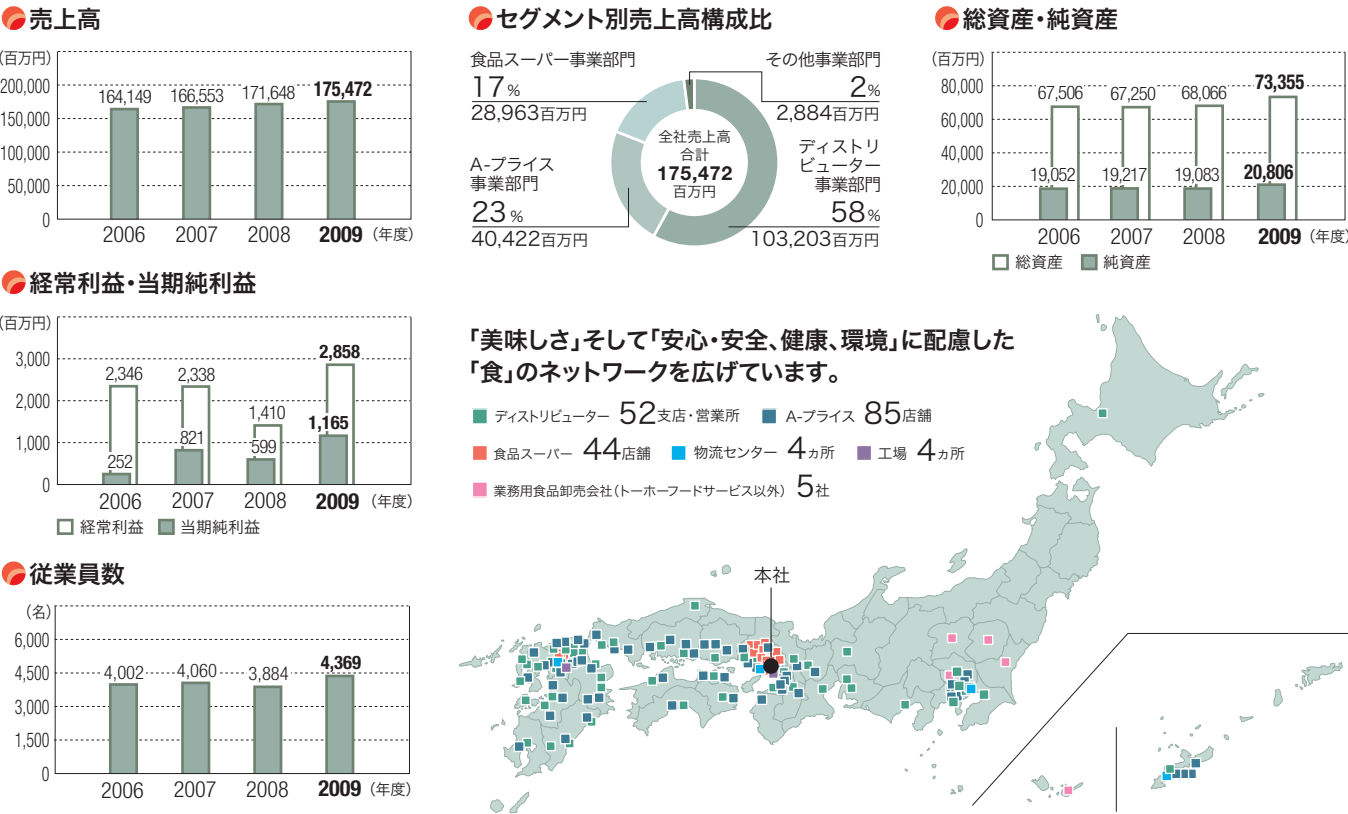


トーホーグループの事業概要



いのちを育むみなもとである「食」を通して
トーホーグループは社会に貢献していきます

財務データ(連結)



従業員の人生を輝かせることで、すべてのステークホルダーの満足を実現します

トーホーは創業以来、「食を通して社会に貢献する」ことを経営理念とし、「美味しさ」そして「安心・安全、健康、環境」をキーワードに事業を展開してきました。CSR(企業の社会的責任)の基本は、まずきちんと税金をお支払いすること、そして雇用を維持することです。会社や仕事に対する充実感、満足感を持っている従業員は成長し、同時に会社も成長します。その結果、顧客満足度が高まり、企業価値を高めることができれば、株主様にもまた満足していただけたと考えています。

現在、景気の落ち込みから消費が低迷しており、事業環境は非常に厳しいですが、経営理念を実践し、本業を全うすることこそが、企業として社会的責任を果たすことであると考えます。



トップコミットメント

「食の安心・安全」のため、品質保証体制の強化や地産地消の推進に取り組んでいます

食に関わる企業としてお客様に「安心・安全」な商品をお届けすることは、最重要の社会的責任です。当社グループは、業界に先駆けて品質保証部を設置し、商品や原材料の理化学検査を実施し、食の安全性保持に努めてきました。こうして培った技術を活用し、お客様の品質管理を代行するサービスも実施しています。2009年度から開始した「食の安心情報サービス」は、原産国、アレルギー、栄養成分などの情報をインターネットで提供する取り組みで、外食産業のお客様から大変ご好評をいただいています。

2009年6月には、厚生労働省登録検査機関である(株)キューサイ分析研究所に資本参加しました。同社は食品メーカーや商社に残留農薬分析サービスなどを提供する国内トップレベルの検査機関です。今後、両社間で連携を深め、お客様に一層の「安心・安全」をお届けできる体制を構築していきます。

また、低水準にあるわが国の食料自給率向上に資するため、生産者様・取引先様と連携して地産地消

商品の積極展開にも取り組んでいます。2009年12月には農業法人「(株)トーホーファーム」(神戸市)を設立し、今後当社グループ自らが、「安心・安全」で新鮮な商品を多くのお客様に提供していく考えです。さらに、兵庫県の楽農交流事業に参画し、食育・食農活動にも力を注いでいます。

地球環境保全のため、環境負荷削減に著実に取り組んでいます

当社グループが環境に与える主な負荷は、配送車によるCO₂排出と事業所や店舗などでの電気使用、食品廃棄物の3つが挙げられます。配送車については、自動車運転時に「急発進・急加速をしない」などの「エコ安全ドライブ」の徹底に努めています。事業所や店舗においては、冷凍・冷蔵庫や照明による膨大な電気使用量をいかに削減するかが課題であり、改装に合わせて順次省エネ型照明・空調設備への切り替えを進めています。

喫緊の課題は食品廃棄物の削減です。改正食品リサイクル法では、2012年度末までに食品リサイクル率を卸売業で70%、小売業で45%まで引き上げると

いう目標が掲げられていますが、現在、当社グループでは目標値に大幅に届いていない状態です。食品廃棄物の削減は当社だけに限らず、すべての食品関連企業に共通する課題であり、問題解決に向けて近隣他社や行政との連携を模索していきます。

「食を通して社会に貢献する企業」のDNAを、グループ全体に浸透させます

当社グループでは2009年度から3ヵ年の中期経営計画「IMPACT2011」をスタートしており、重点施策の一つとしてM&A(企業の合併・買収)を進めてきました。同計画2年目の2010年度は、新たにグループ入りした企業との一体化を図り、「食を通して社会に貢献する」という「トーホーのDNA」を、グループ全体に一層浸透させていきたいと考えています。

当社グループのCSRに対する考え方と活動をご理解いただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

2010年4月

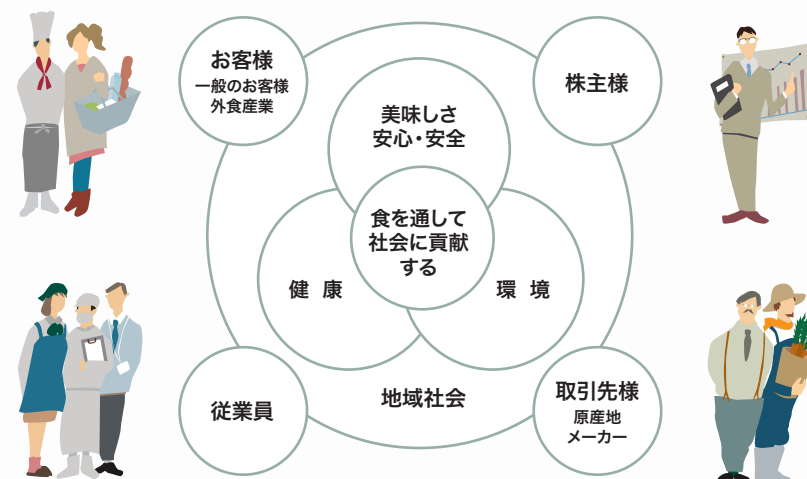
代表取締役社長

上野 裕一

経営理念「食を通して社会に貢献する」を貫き、CSRを推進していきます

トーホーグループのCSRの考え方

「美味しさ」そして「安心・安全、健康、環境」をキーワードに皆様から必要とされる企業となることを目指します





「美味しさ」そして「安心・安全」「健康」な食を提供する



商品の「美味しさ」へのこだわりはもちろんのこと、お客様に「安心・安全」「健康」に配慮した食を提供することに全力をあげて取り組んでいます。徹底した品質管理に努めるとともに、「食」に関する情報提供や、地産地消の推進に力を注いでいます。

徹底した品質管理で、食の「安心・安全」を守ります

トーホーグループでは、自社商品の開発から保管・配送までのそれぞれの段階で「食」の安全を確保しています。安全確保は、残留農薬検査や微生物検査、商品表示チェックといった品質管理と、施設・工場の衛生管理を2本柱としています。

2009年6月には、厚生労働省登録検査機関である(株)キューサイ分析研究所に資本参加しました。これを機に、残留農薬などの検査体制を今後さらに強化できるものと考えています。また、品質・衛生管理のノウハウを活かした、お客様への「品質管理代行サービス」の提供にも力を注いでいます。

●卸売業として、それぞれの段階で品質管理を徹底



商品の開発・調達段階
遺伝子組換え原料やトレーサビリティなどを詳細まで管理し、製造委託先を視察した上で、商品を開発・調達しています。



仕入れ段階
自社開発商品について微生物検査・理化学検査を行っています。2009年度は検査対象アイテム数を増やしました。



保管段階
保管庫を常温・定温・冷蔵・チルド・冷凍・超冷凍などの温度帯に分け、各商品に応じた保管庫に速やかに格納しています。



配送段階
品質保持のために、配送車両内を2温度帯に仕切りで分け、冷凍食品と常温・冷蔵品をそれぞれ積み分けて配送しています。



外食産業のお客様



安全管理研修の様子

食の安全情報をさまざまな手段で提供します

2009年2月から、外食産業のお客様に、アレルギーや原産国、栄養成分など全357項目の情報をインターネットで提供する「食の安心情報サービス」を始めました。大手外食企業を中心に全国2,000店舗で採用されています。

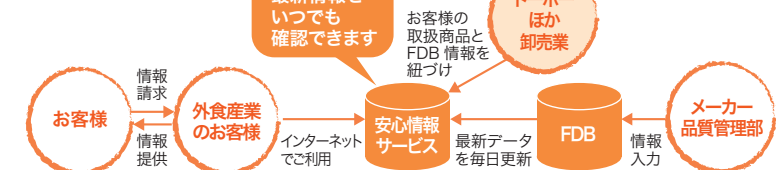
また、外食産業のお客様やメーカーとの情報交換の場として「食の安心ポイントセミナー」を開催。2009年度は福岡と神戸で各1回開き、衛生管理やインフルエンザ、ノロウイルス対策などについて情報を共有しました。大好評で2010年度は3回の開催を予定しています。

●食の安心情報サービスの仕組み

従来の商品情報の流れ



食の安心情報サービス



私のCSR活動

品質管理代行サービス担当者



(株)トーホー
ビジネスサービス
品質保証部
阿比留 泰子

弊社の品質管理代行サービスは、お客様の「施設点検」と「食品検査」を行い、その結果に基づき、人材育成を含めて、現場に見合った衛生管理体制の構築を支援しています。お客様から、食品の日付管理、温度管理などについて「飛躍的に管理状況が良くなった」と高い評価をいただいています。

グループ内で広がる「安心・安全」の取り組み

■(株)大辰水産

水産物・水産加工品の製造・卸・販売

毎月、加工センター内にて、外部機関による害虫駆除と防虫対策を実施しています。また、従業員を対象とした衛生教育を開催し、安全管理を徹底しています。



■(株)トーホー・パワーラックス

全酒類、生鮮・加工食品、業務用食品などの店舗販売

食の安心・安全確保に不可欠な衛生的な環境づくりのために、練馬インター店、東久留米店、世田谷店にて、毎月、防鼠対策作業を実施しています。



食の安心ポイントセミナー



「食の安心情報サービス」は、業務用食品専門卸企業と連携し、メーカーの協力をいただきながら、業務用食品業界の商品情報標準データベース「FDB(ファイネット商品データベース)」を活用し、商品基本情報143項目と品質系情報214項目を提供

TOPICS

トーホーストア本多間店が食品衛生優良施設として表彰

2009年3月、トーホーストア本多間店が神戸市保健所から食品衛生優良施設として表彰されました。

日々の衛生管理の徹底や、適切な温度管理、商品の期限管理を実施していることなどが評価されたものと考えています。



トーホーストア本多間店

「美味しさ」そして「安心・安全」「健康」な食を提供する

“地産地消”を推進し 安全で美味しい作物を提供します

食の「安心・安全」を守り、日本の低い食料自給率を向上させていくためには、今まで以上に生産者との距離を縮め、地産地消を進めていく必要があります。

トーホーでは、食料自給率向上を目指して国が推進する「フード・アクション・ニッポン」に賛同し、推進パートナーに登録しています。生産者の顔が見える食品をお客様に提供し、日本の農業・漁業を応援していきます。



日本の農業・漁業を応援

社外からの声

「にっぽん地魚紀行」のお客様



ラムダホテル大阪
総料理長
吉田 泰宏 様

現在レストラン2店舗にて、フェアに合った国内各地の漁港を選び利用しています。魚のバラつきも少なく質も良いですし、国内の漁港から指定通りに納品されるので安心です。旬の物や限定物をもっと紹介していただければ、メニューにももっと特色が出せると思います。



インターネットで新鮮な地魚を全国の漁港からお届けする「にっぽん地魚紀行」を2006年度から展開



トーホーファームを設立し、 本格的に農業に参入しました

トーホーでは2006年8月以降、神戸市から農地を借り入れ、自ら農産物を生産しています。2009年度はキャベツ、白菜、ブロッコリーなど約8種類を栽培し、楽農レストラン「育みの里かんでかんで」の食材として使用したほか、兵庫楽農生活センター内の直売所やトーホーストア兵庫県下39店舗で販売しました。

2009年12月には、農業法人「(株)トーホーファーム」を設立し、本格的な農業参入を果たしました。今後、兵庫県産野菜の栽培と流通の仕組みを確立し、安心・安全で新鮮な野菜をより多くのお客様に提供していきます。



兵庫県主催の「企業の農業参入セミナー」で取り組みを発表

社外からの声

トーホーの借り入れ農地の理事



神出開拓農業協同組合
代表理事組合長
香月 誠 様

終戦間もない昭和23年に食糧増産を目的とし、この「神出」の地に入植してから60余年。その間、農業は作物を作るとともに人作りだという思いで、数々の試みをしてきました。トーホーファームの設立をはじめ食に関する企業としてのトーホーの努力に、私どもも協力を惜しまない思いです。古きを知り新しきを知ればまた違った農業分野も開拓できることと思います。



借り入れ農地

トーホーストアで“地産地消”を 積極的に推進します

トーホーストアでは自社農園や地元の農家で栽培した野菜の販売コーナーを設けて、地産地消を推進しています。

2009年度からは、兵庫県産商品やそれらを使用した加工商品などを「五国豊穰」と名付けました。兵庫県は5つの旧藩で構成され、地形・気候が日本の縮図と言われています。自然豊かで、伝統ある兵庫県の食べ物を再発見し、お客様に提案したい——「五国豊穰」にはそんな思いを込めています。代表商品として、コウノトリが住む自然豊かな田んぼで栽培された「コウノトリ育むお米」、植物性飼料を使用し、じっくりと肥育した「兵庫産三田和牛」、カニの殻を配合した特別飼料で飼育した「兵庫産かに美鶏」などがあります。



トーホーストアの地産地消売り場

社外からの声「コウノトリ育む農法」の考案者



兵庫県農政環境部
農林水産局
農業改良課
環境創造型
農業専門員
西村 いつき 様

環境変化によって絶滅に追いやられたコウノトリでも棲める環境づくりを進めようと「コウノトリ育む農法」が生まれました。「コウノトリ育むお米」を買い支えることが、コウノトリも棲める環境づくりにつながります。生物多様性というグローバルな視点にたち、地域の食を提案する地道な活動に敬意を表します。



「コウノトリ育む農法」
をトーホーストアの
売り場で紹介



「コウノトリ育むお米」の売上の一部を、
コウノトリ野生復帰推進資金として
豊岡市コウノトリ基金に寄付

社外からの声「丹波の赤じゃが」の開発・生産に協力した学生



神戸大学農学部
食料環境経済学
専攻
西村 咲香 様

農山村活性化のための地域ブランドづくりに興味をもち、卒業研究の一環として「丹波の赤じゃが」プロジェクトに参加しました。店頭販売の時にアンケート調査を実施したところ、消費者から高く評価されているとともに、地域を支援する取り組み自体にも強い共感が得られていることがわかりました。今後もこのような取り組みが継続されていくことを期待します。



トーホーストアの店頭で
神戸大学大学院の学生が
「丹波の赤じゃが」をピー
アール

神戸大学大学院農学研究科と兵庫県篠山市の農事組合法人と共同で開発・生産した「丹波の赤じゃが」(トーホーストアでの販売は終了)



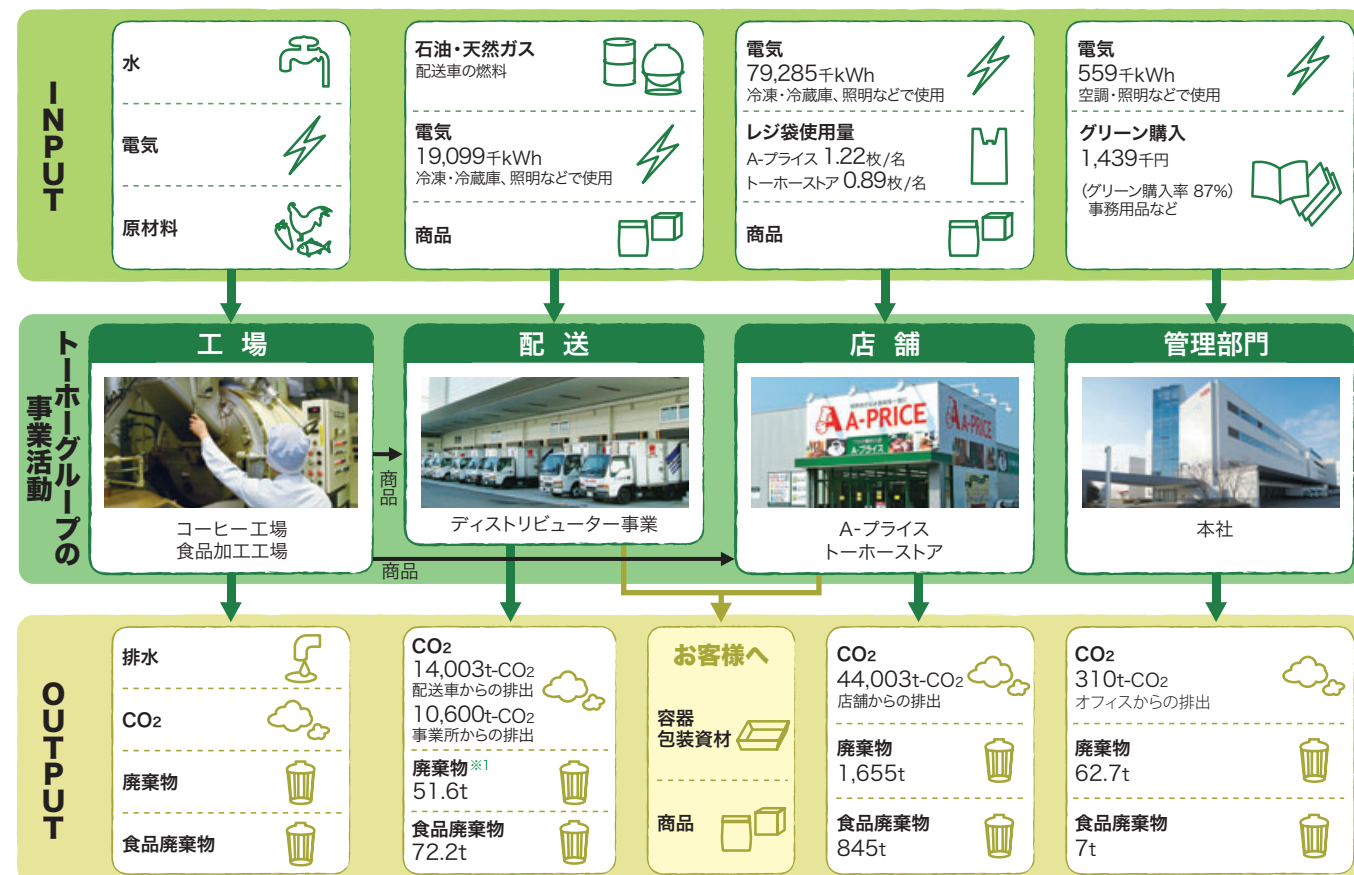


「環境」に配慮した事業活動を推進する

「地球環境の保全」は、すべての企業にとっての重要課題であると言えます。トーホーグループは「食」に関わる企業として、地球温暖化の防止はもちろんのこと食品廃棄物の削減・再資源化や、お客様と協力したレジ袋の使用量削減に努めています。



トーホーグループの事業活動が環境に及ぼす影響



注) 電気使用量のCO₂排出量は換算係数0.555kg-CO₂/kWhを使用して算出。 ※1 廃棄物：集計範囲は、神戸支店、福岡支店の2支店のみ。

地球温暖化防止のため省エネルギー化と「エコ安全ドライブ」を推進します

地球温暖化を防止するため、グループ各社がさまざまな方法で電気使用量の削減などに取り組んでいます。2009年度は、本社の大規模修繕工事にともない省エネルギータイプの空調機や断熱ガラスを導入しました。トーホーストア4店舗の改装時には、省エネルギータイプの照明・空調設備に変更し、エネルギー効率を約19%改善しました。

またトーホーフードサービスでは、外食産業のお客様に商品を配送する際に、安全で省エネルギー性の高い運転方法「エコ安全ドライブ」の徹底に努めています。



トーホーストア改装時に、消費電力の少ないLED照明を導入



エレベーターではなく階段の使用を推進(本社)

グループ内で広がる「環境」の取り組み

■(株)トーホー・群馬 外食産業への業務用食品卸売

使用していない時の倉庫内や、冷蔵庫内の消灯を徹底しました。事務所では、離席時にパソコン電源をオフにするなど、身近にできる省エネルギー活動に取り組みました。



■(株)神戸営繕 総合建設請負業

事務所内の照明のこまめな消灯や、空調の温度設定の徹底、設備機器の待機電力の削減などに取り組んだ結果、前年度と比べて約25%の省エネルギー化が図れました。



■サンエバー(株)

コーヒーの焙煎、喫茶直営店の経営と洋菓子の製造・販売

①「水の出しっぱなし」、②「電気のつけっぱなし」(空調・照明・冷蔵庫など)、③「資源の使いっぱなし」(省資源とリサイクル)の、3つの「ばなし」をなくそう運動に取り組みました。



■(株)TSK

不動産賃貸業、保険代理店業務

トーホーストア18店舗の水道蛇口に節水器を取り付け、水の使用量を削減しました。その結果、2008年度比18.0%の水道使用量を削減することができました。

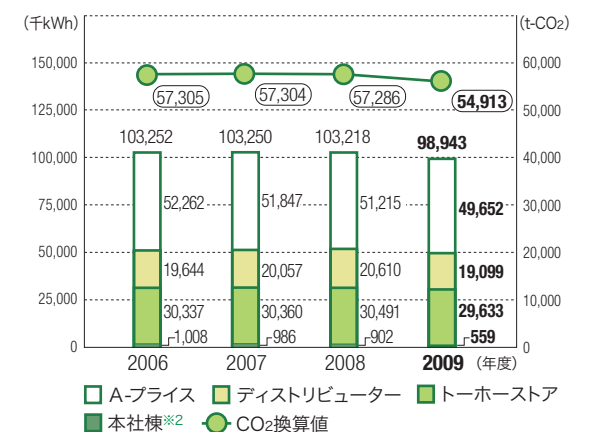


環境負荷の少ない天然ガス自動車



事業所でエコ安全ドライブ研修を実施

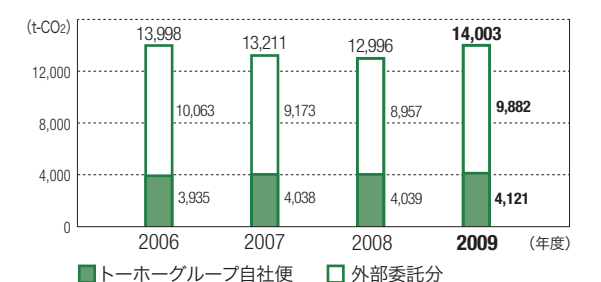
電気使用量



※2 本社棟：トーホー、トーホーフードサービス、トーホーストア、トーホービジネスサービス、TSK、アスピット本社を示す。

注) 電気使用量のCO₂排出量は換算係数0.555kg-CO₂/kWhを使用して算出。

車両からのCO₂排出量



「環境」に配慮した事業活動を推進する

食品廃棄物のリサイクルを推進しています

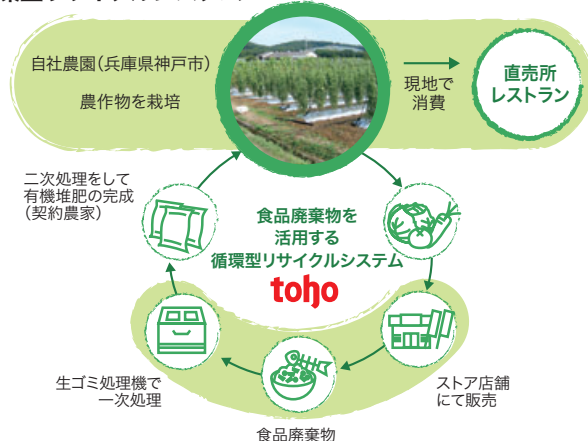
トーホーストア店舗や、トーホーフードサービス各支店・営業所、A-プライス店舗、本社食堂など、食品廃棄物が発生するすべての場所で、その削減に取り組んでいます。

トーホーグループから発生する食品廃棄物の約8割を占めるトーホーストア店舗では、廃棄ロス率を管理することで食品廃棄物の発生を抑制するとともに、発生してしまった食品廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。食品廃棄物から堆肥を作り農作物の栽培に活用する「循環型リサイクルシステム」にも取り組んでおり、2009年度は、トーホーストア東二見店（兵庫県明石市）や兵庫楽農生活センター内のレストランで生じる食品廃棄物から合計約10トンの堆肥を作り、自社農園（兵庫県神戸市）で使用しました。



トーホーストアのバックヤードでは、食品廃棄物を分別してリサイクル

● 循環型リサイクルシステム



グループ内で広がる「環境」の取り組み

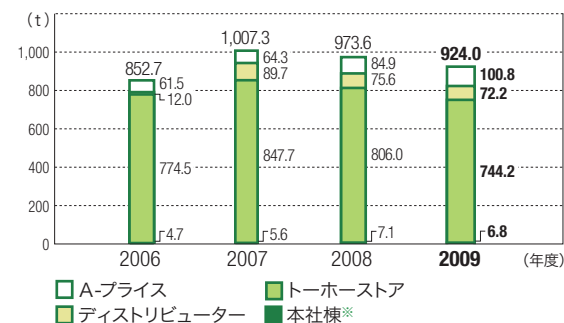
■(株)トーホー・パワーラックス
全酒類、生鮮・加工食品、業務用食品などの店舗販売
店頭で牛乳パック・食品トレイ・ペットボトルの回収ボックスを設置し、リサイクルに努めています。2009年度から開始した東久留米店と日野店を合わせて3店舗で実施しています。



■(株)昭和食品
外食産業への業務用食品卸売、業務用食品現金卸売
2008年8月から独自に、エコキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを贈る活動に取り組んでいます。2009年3月、宇都宮市社会福祉協議会に6,000個を寄付しました。

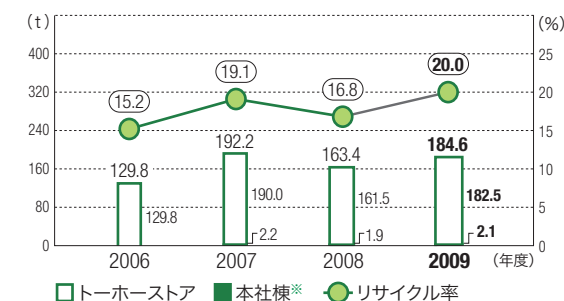


● 食品廃棄物の排出量



注)ディストリビューターの集計範囲は、2006年度は神戸・福岡の2支店のみ、2007年度以降は全支店・営業所。

● 食品廃棄物のリサイクル量・リサイクル率



※ 本社棟：トーホー、トーホーフードサービス、トーホーストア、トーホービジネスサービス、TSK、アスピット本社を示す。

TOPICS

資源を有効利用して社会に貢献

2009年3月から、グループの一部を皮切りにペットボトルキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを贈る「エコキャップ運動」に参画しています。2010年1月末現在、149,480個を集め、NPO法人エコキャップ推進協会に送付。187人分のワクチンに換えることができました。

また「プルタブを集めて車椅子プレゼント大作戦」も継続し、2009年11月には2台目となる車椅子を佐賀市に寄贈しました。



エコキャップ運動

マイバッグを推進して、レジ袋の削減に努めます

レジ袋の削減はお客様の協力なくしては実現しません。そこでトーホーストアでは、2009年6月、11月のチラシにレジ袋辞退率とそれによるCO₂削減効果を掲載し、お客様にマイバッグの持参を呼びかけました。さらに、2008年度の大塩店（兵庫県姫路市）に引き続き、2009年3月からは、緑が丘店、志染駅前店（兵庫県三木市）において、新たにレジ袋の無料配布を中止しました。

その結果、2009年度のトーホーストアでのレジ袋辞退率は、目標の19%を越える21.3%となりました。2010年度は23%を目標に取り組みます。

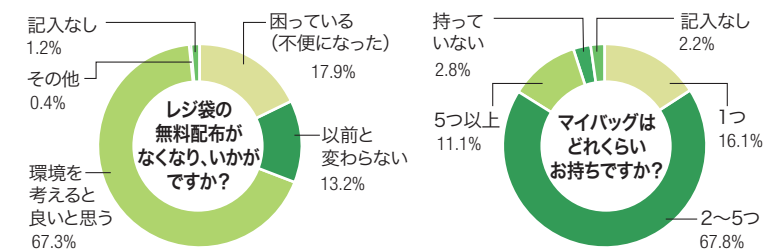


トーホーストアのチラシでマイバッグの持参を呼びかけ



レジ袋の無料配布中止をお知らせするポスター

● マイバッグに関するお客様アンケート



集計範囲：緑が丘店、志染駅前店のお客様502名

私のCSR活動



(株)トーホーストア 志染駅前店 店長 横田 一喜

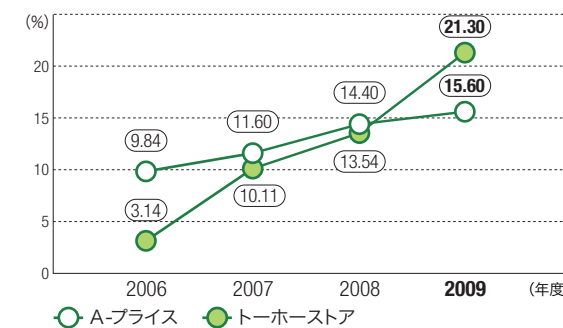
2009年12月に店頭でマイバッグの無料配布を実施しました。開店前から大行列ができ、大変盛況でした。その際実施したアンケートで「困っている(不便になった)」と回答されたお客様も多数おられ、まだまだ、私たちの取り組みに対するお客様への協力依頼が不十分だったと反省させられました。今後はレジ袋辞退率のさらなる向上を目指し、お客様とともに環境保全への取り組みを進めていきます。

レジ袋無料配布中止店の店長



レジ袋の収益金でマイバッグを無料配布

● レジ袋辞退率



TOPICS

レジ袋無料配布中止による収益金を地域に還元

レジ袋の無料配布を中止したトーホーストア緑が丘店、志染駅前店（兵庫県三木市）では、レジ袋の収益金で、地域の皆様にマイバッグを無料配布しました。

また2008年11月からレジ袋の無料配布を中止したトーホーストア大塩店（兵庫県姫路市）では、レジ袋の収益金を地元の秋まつりに寄付しました。



マイバッグの無料配布(緑が丘店)



秋まつり告知(大塩店)



「食」に関わる企業としての社会貢献活動

次代を担う子どもたちに自然の素晴らしさや農業の楽しさ、「食」の大切さを知ってもらうことも「食」に関わる企業としての重要な社会的責任であると当社は考えます。そうした思いから、トーホーグループは「食育・食農活動」を多彩に展開しています。

子どもたち、地域の皆様へ「食育・食農活動」を推進します

トーホーでは、「食を通じた社会貢献」の一環として、(社)兵庫みどり公社が総合的に管理運営する「兵庫楽農生活センター」で楽農交流事業の運営に参画し、食の大切さを伝える「食育・食農活動」を展開しています。家族で土と親しめる「野菜栽培体験」や、自然を体験できる「里山再生塾」など、大人から子どもまで野菜の美味しさや自然の生命力を体験できるさまざまな体験コースを実施しています。

また「旬」や「地産地消」にこだわったメニューを提供する楽農レストラン「育みの里かんでかんで」のスタッフによる、主に兵庫県産の食材を使用した「地産地消料理教室」も開催しています。



環境体験学習
神戸市立花谷小学校の3年生109名を受け入れ、タマネギの定植とサツマイモの収穫を実施(2008年度から継続実施)



地産地消料理教室
旬の素材を生かした料理のみならず、プロの技術とコツを家庭でも簡単に活用できると好評(2009年度は、12回開催、101名参加)



見学・視察者の受け入れ
兵庫楽農生活センターでは、毎年多くの見学・視察を受け入れています(2009年度は延べ188団体、5,426名が見学・視察)



野菜栽培体験
種まきから苗の定植・育成・収穫まで、野菜栽培に必要な知識を楽しく習得(2009年度は、12回開催、339名参加)



身近な自然である「里山」の再生に取り組んでいます

「里山」とは、人里と山の境目にあたる雑木林や、田んぼ、ため池といった、人の営みの中で保たれてきた自然環境のこと。さまざまな生き物が生息する生物多様性の宝庫ですが、農村部の過疎化などによって、里山の荒廃が危惧されています。そこで、身近な自然である里山を美しく再生し、子どもたちに自然の素晴らしさを知ってもらうために、兵庫楽農生活センター内で「里山再生塾」を開催しています。

再生塾では、人と共生し憩える森づくりを目指して、ササなどの下草刈りやベンチ・遊歩道づくりをし、里山を整備しています。また、間伐材を使った木工教室や、昆虫採集、自然観察会などの自然体験プログラムを用意しています。2009年度は10回開催し、延べ155名の方に人と自然との関係について学んでいただきました。



草木を使ったリース作り



「里山再生塾」での昆虫採集の様子



参加者みんなで拾った栗を味わう

社外からの声



山地 隆興 様

「里山再生塾」参加者
神戸の近郊、雌岡山麓を活性化し、自然環境の保護、再生にささやかながら貢献できるとの意気込みで参加し、はや4年目を迎えました。日当たりを良くし眠っている植物の成長を促すため大木を伐採した時には、格別の爽快感を味わっています。私たちの作業がやがてかつてこの山に生息していた絶滅危惧種ギフチョウの復活などにつながるのかなと楽しみにしています。

グループ内で広がる「食」に関わる社会貢献活動

■サンエバー(株)

コーヒーの焙煎、喫茶直営店の経営と洋菓子の製造・販売

一部店舗で一般のお客様を対象にコーヒー教室を開催し、コーヒーの美味しい入れ方・飲み方を紹介しています。また、洋菓子製造のシャンボール工場では、お菓子教室も開催しています。



■(株)トーホー・パワーラクス

全酒類、生鮮・加工食品、業務用食品などの店舗販売
東久留米店では食育活動の一環として、毎年、地元の小学生約70名を店舗に招き、施設見学を実施しています。食材の管理や発注、接客手法や商品知識などを説明しています。

TOPICS

常陸宮妃殿下が「兵庫楽農生活センター」をご視察

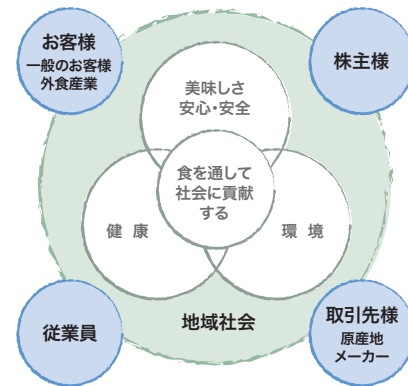
2009年10月、常陸宮妃殿下が「兵庫楽農生活センター」をご視察されました。トーホーが運営する楽農レストラン「育みの里かんでかんで」や「BDF(バイオディーゼルフューエル)製造施設」についてご視察いただき、レストランでは料理方法などを熱心に尋ねられました。今回のご視察を励みに、皆様に喜ばれる事業運営に一層努めていきます。



楽農レストラン「育みの里かんでかんで」にて

ステークホルダーの皆様の満足度向上を目指して

すべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して真摯な姿勢で接して満足度の向上に努め、社会から必要とされる企業となるためにトーホーグループはさまざまな取り組みを実施しています。



お客様と――

展示商談会で役立つ情報を提供しました

外食産業のお客様のお役に立つ情報を提供するため、毎年展示商談会を開催しています。

2009年度は春と秋合計9会場で、延べ22,000名のお客様にご来場いただきました。「“新”食の発見 おいしさの演出をお手伝いします」と題し、テーマに沿ったこだわり食材、売れ筋商品・話題の商品を紹介し、メニュー作りのヒントとなる情報もあわせて提案しました。味噌や醤油など和の調味料を使ったデザートが人気で、「ぜひメニューに取り入れたい」との声をいただきました。



大阪での展示商談会

店舗での接客力向上のために

トーホーストアでは毎月2回、「フレンドリー・接客研修」を実施しています。これは、接客をするパート従業員やアルバイトを中心に、「お店の顔」として必要な基本知識を身につけ、接客力を向上させることを目的としたものです。

今回研修を受講して、改めて、身だしなみや言葉遣いなどをお客様の立場になって考えるという基本の大切さを学びました。一人ひとりのお客様を大切にすることで、ひいてはそのお客様のご家族やお友達にもご利用いただけるようなお店を目指し、この研修で学んだことを実践していきたいと思えます。



(株)トーホーストア 別府店 レジ担当
寺岡 香澄



フレンドリー・接客研修

各地でミニ展示商談会を開催しています

各地の事業所やA-プライス店舗では、各地域の外食産業のお客様に密着したテーマを設定し、ミニ展示商談会を開いています。

事例 ① (株)トーホーフードサービス 中部営業部 「ブライダル食材展示会」

各地のシェフから注目を集めている、スペインの三つ星レストラン「エル・ブジ (elBulli)」のシェフが新しい調理方法を生み出すために考案した特殊な添加物「テクスチャー」の実演コーナーを設けました。開催にあたっては、婚礼場やレストランのお客様が何を求めているのか幾度も討議しマーチャンダイザーと打ち合わせました。

当日は、お客様から熱心な質問をいただき、大変盛況でした。



(株)トーホー フードサービス 三重営業部 所長
片田 和則



テクスチャー実演コーナー

事例 ② (株)トーホーフードサービス 関西営業部 「コーヒー商談会」

今回、新たな出店をお考えのお客様などを対象に、コーヒーに特化した商談会を開催しました。開催前に「お客様カルテ」を作成し社内で情報共有したため、商談会の短い時間の中で、お客様のご事情にあったコーヒーの味や提供スタイル、価格などをご提案したり、トーホーコーヒーのこだわり、抽出方法などを説明することができました。

2010年度は、全国の計11支店でコーヒー商談会を開催予定です。



(株)トーホーフードサービス マーケティング統括部 コーヒー販促チーム チームリーダー
森 永年



抽出方法などをご説明

株主様と――

社会貢献型株主優待で車椅子を寄贈しました

トーホーは、株主優待として買物割引券と自社製品を贈呈していますが、当社グループの店舗が近隣にない株主の皆様にも魅力ある制度とするため、買物割引券を寄付金に変えることができる社会貢献型株主優待制度を2009年1月末権利確定分から導入しています。買物割引券を完全未使用の状態でご返送いただければ、その10%にあたる金額を株主に代わって社会福祉団体または社会福祉施設に寄付をさせていただきます。

2009年7月時点で656名の株主様からご賛同をいただき、2009年8月に神戸市保健福祉局を通じて自操式車椅子2台とシャワーキャリー（風呂用車椅子）3台を寄贈しました。



車椅子の寄贈

地域社会の皆様と――

中学生に震災復興体験を紹介しました

2009年9月、岐阜市立加納中学校3年生の18名が阪神・淡路大震災の復興活動を学習するため、当社を訪問しました。当社グループは、大震災によって神戸地区の事業所や店舗、さらには従業員とその家族たちが甚大な被害を受けましたが、多くの関係先の皆様、地域のお客様から励ましをいただきながら、九州地区から応援部隊を派遣するなど地域と一体になって復興に取り組みしました。今回の学習では、そうした復興に向けた取り組みについて、実際に復旧にあたった従業員たちが、写真や資料を用いて紹介しました。

また、当日は職業理解を深めてもらうため、コーヒー工場の見学も実施しました。



中学生にトーホーグループの取り組みを紹介

株主総会後に自社開発商品を使用した試食会を初開催しました

トーホーグループの主力業態は外食産業向けの食品卸売であるため、株主様にどのように事業内容を理解していただくかが以前からの課題でした。そこで、2009年4月に開催した株主総会の後に初の試みとして株主様向けの試食会を実施しました。試食会では、当社の自社開発商品の品質の高さについても株主様にご説明させていただきました。

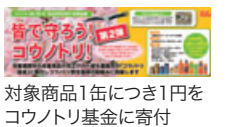
また、環境に配慮した活動の一環として当社グループで取り組んでいるレジ袋の削減についても理解していただくため、100%リサイクル素材の炭再生紙で作ったマイバッグを、総会に出席された株主の皆様に贈呈しました。



株主総会で贈呈したマイバッグ

「コウノトリ」を守るための基金に寄付しました

トーホーストアでは、サントリービヤ&スピリッツ(株)様と共同企画で「皆で守ろう!コウノトリ!1円1缶募金」キャンペーンを実施し、収益金を豊岡市コウノトリ基金に寄付しました。



対象商品1缶につき1円をコウノトリ基金に寄付

タイやラオスへ中古衣料を寄贈

トーホーグループの労働組合トーホーユニオンでは、CSA(アジア連帯委員会)が毎年実施しているタイやラオスの難民キャンプや福祉施設、被災地などに中古衣料を送る「救援衣料を送る運動」に賛同し、2009年度は656着の衣料をCSAに寄贈しました。



トーホーユニオン 専従
十河 明子



寄贈した中古衣料

取引先の皆様と――

フェアトレード認証コーヒーの普及拡大

コーヒー豆の生産地の多くは貧困にあえぐ開発途上国。フェアトレードとは、コーヒー生産者に最低買入価格を保障し、公正な取引によって生産者の継続的な生活の向上と自立を支援するものです。

トーホーグループではこの趣旨に賛同し積極的にフェアトレード認証コーヒーを取り扱っており、販売量は国内トップクラスを誇ります。

2009年度はキャンペーンを実施し、販売量は前年度比102%となりました。



(株)トーホー
フードサービス
コーヒー製造部
部長
クラシフィカドール
橋口 哲二



フェアトレード
認証コーヒー(左)

従業員と――

仕事と家庭を両立できるよう支援しています

ワークライフバランスに配慮した、多彩な支援制度を設けています。例えば「JOBリターン制度」は、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤などやむを得ない事情で退職した女性従業員を再雇用する制度で、現在3名が登録しています。うち1名は嘱託社員として再雇用し、2010年4月に正社員へ登用しました。

「JOBリターン制度」を活用して

主人の転勤を機に退職することになり、「JOBリターン制度」に登録。今回、再雇用のお話をいただき制度を活用することにしました。見知らぬ土地での再就職は大変ですが、一度働いていた会社に再就職できるこの制度は、とても心強く、感謝しています。



(株)トーホー
ビジネスサービス
経理部
渡部 友美



キャリアアップ目指して制度
を活用

取引先様との円滑な対話を図っています

トーホーは取引先様との共存共栄とコミュニケーションの円滑化を図るため、取引先様360社と「トーホー会」を結成しています。

2009年度は9月に関西・九州で「トーホー会定例総会」を開催し、合計345社、642名様にご参加いただきました。第1部の総会では、「トーホー会」の事業報告や収支決算報告などの議案が承認され、最後に今期からスタートした当社グループの第四次中期経営計画を軸とする今後の事業展開について、社長より説明させていただきました。第2部の懇親会では、取引先様との親睦を深めました。



トーホー会定例総会(九州)

2009年度の次世代育成制度活用者数

制度	人数
育児休業制度利用者	21名
育児のための時間外労働制限利用者	1名
育児のための勤務時間短縮者	1名
幼児のための勤務時間短縮者	2名
JOBリターン制度登録者	3名

働きがいを感じられるよう 処遇体系を見直しました

「企業は人なり」という経営憲章のもと、すべての従業員が個性や能力を活かしながら働けるよう、職場環境の整備を進めており、多様な人材の採用と適正な処遇に努めています。

従業員が働きがいを感じられるよう、人事制度の再構築も進めており、2009年度は、従業員の実績・貢献度をさらに重視し、成果が給与に反映される、わかりやすくメリハリのある処遇体系へと見直しました。

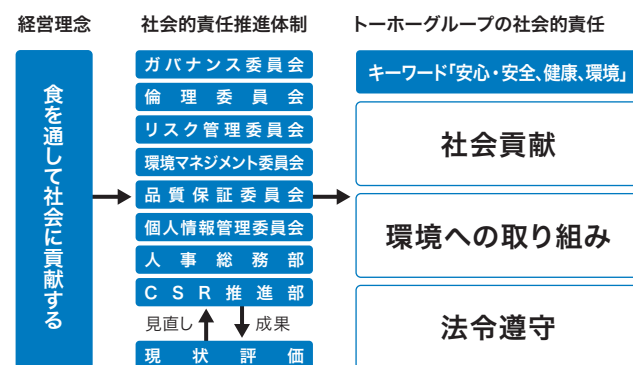
マネジメント

CSRマネジメント

トーホーグループは創業以来、「食を通して社会に貢献する」という経営理念に基づいて、食に関わる企業としての責任を果たし、お客様をはじめ、株主様、取引先様、地域社会の皆様や従業員との良好な関係づくりに努めています。

2008年度には、より実効的な体制として、株主・株式事務、環境マネジメント、地域貢献活動、リスク管理、法務、お客様相談室などを統合した「CSR推進部」を設置。従業員へのCSR啓発活動として、社内発行物を定期的に発行するとともに、2009年3月からは社内イントラネットに「知って伝えてCSR」のページを新設し、会社が取り組むCSR活動について紹介しています。

CSRへの取り組みの基本的な考え方



法令遵守

トーホーグループでは、本社に「倫理委員会」、各職場に「生き活き職場委員会」を設置し、全従業員でコンプライアンスに取り組んでいます。「生き活き職場委員会」は、各職場での法令遵守推進はもちろん、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなどの防止についての啓発にも注力しています。2009年度は、「労務管理の取り組み強化について」を社長メッセージとして発信し、労働時間短縮に向けたさらなる業務改善、労務管理の徹底などに取り組むとともに、裁判員制度導入にともなう裁判員休暇に関する社内規定を制定しました。

また、トーホーでは適切に個人情報を取り扱う体制を整備している事業者に付与されるプライバシーマークを更新し、新JIS(JISQ15001:2006)への対応が完了したことで、個人情報保護体制を充実しました。

第三者意見



神戸大学大学院 農学研究科 教授
加古 敏之 氏

トーホーは、「食を通して社会に貢献する」という経営理念のもと、食品流通を中心に成長してきました。それにつれ、CSR活動も食関連の広い分野をカバーする内容へと充実・進化しています。

食の安全を脅かす事件や食品の偽装表示問題が多発する中で、業界に先駆けて品質保証部を設置して、残留農薬検査等の品質管理と、施設・工場の衛生管理を中心に食の安心・安全の確保に積極的に取り組んでこられたことは高く評価されます。さらに、外食企業や食品メーカー、商社などに対して品質管理代行サービスや食の安心情報サービスを提供して日本の食関連企業の食の安心・安全の確保に貢献しておられる点も注目されます。

また、食品廃棄物を堆肥や土壌改良剤として利用して農産物を生産し、販売するという循環型リサイクルの実施も時代の要請に即した取組です。そして、多くの国民が日本の低い食料自給率に不安感をもっている中で、Food Action Nipponの主旨に賛同し、国産商品の販売や地産地消を積極的に推進して、食料自給率の向上活動を展開しておられることは、多くの消費者の共感を得ることでしょう。

一方で、CSRのさらなる発展のために期待したいことがあります。食料品の主たる買い手であり、家庭での主たる料理人である女性は、男性よりも食に近いところにいます。そうした女性が一層活躍し、キャリア形成できる環境を整備するとともに、女性の視点をより重視したCSRを展開されることを期待します。

また、CSR活動を通してトーホーが企業価値を高められるとともに、取引相手や社会にも恩恵をもたらす「三方よし」の関係を一層推進されることを期待いたします。このことが現在を生きる世代のみならず、持続可能な社会を将来の世代に継承する企業の社会的責任であり、社会もそうした企業の発展を強く望んでいます。

第三者意見をいただいて



株式会社トーホー
取締役専務 CSR推進部担当
中溝 武夫

CSRの領域は多岐にわたるため、私たちの事業である「食」の分野における「安心・安全」を第一義と考えます。

2009年度は、食品検査において日本でトップクラスの企業に資本参加し、「食の安心・安全」に大きな柱を加えることができました。また、地産地消の取り組みとして「コウノトリ育むお米」(豊岡市)・「丹波の赤じやが」(篠山市)の販売など新たな動きを始めました。さらに、自社で農業法人を設立し、食料自給率の向上に、従来以上に取り組むようにいたしました。

一方、女性が一層活躍し、キャリア形成できる環境を整備するため2005年からプロジェクトを立ち上げ、各種制度の充実に取り組んでいます。例えばその一つである「育児休業制度」の利用者は20名程度と、ここ数年増えてきております。また、女性を店長に登用することで、女性の視点を活かした店舗運営にも取り組んでいます。

これらの取り組みだけでなく、環境保全活動や社会貢献活動についても、CSR推進部の体制を強化し、より一層の発展を図ってまいります。